

若松ふ頭整備関連の情報提供について

函館港へのクルーズ船の寄港動向

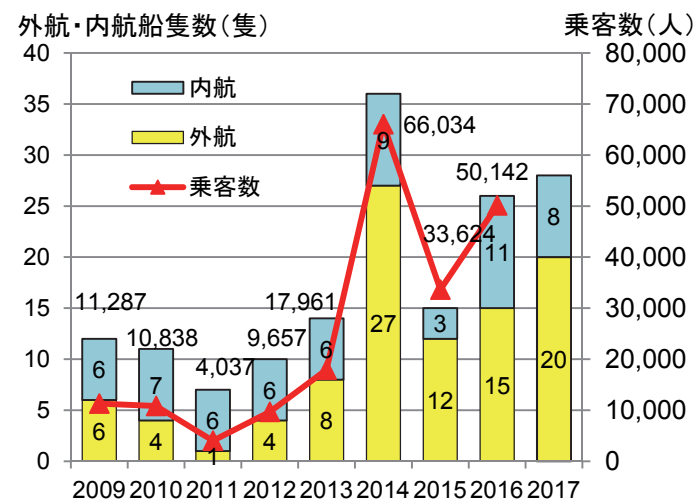
- ◆函館港へのクルーズ船寄港数は急増しており、2016年は26隻で北海道内1位(全国15位)となっており、2017年も28隻となり北海道1位となった。特に外航クルーズ船の寄港数が増加傾向である。
- ◆函館市は、2020年の目標寄港回数を50隻と設定し、将来的には年間70隻を目指し、国内外のポートセールスを強化している。
- ◆現在、クルーズ船は函館朝市、バイエリアなどの観光の中心地から6.5km離れた港町ふ頭を利用しているが、交通アクセスが悪く、景観も悪いため(背後は金属くず堆積ヤード)、市内の滞在時間が減るなど、旅客の消費活動に影響が出ている。
- ◆平成28年度より、観光の中心地に近い若松地区にクルーズ受入岸壁に着手した。市内の主要観光地への徒歩20分圏内でのアクセスが可能となることから、滞在時間の拡大や、観光消費への波及効果が期待できる。



函館港 若松地区 整備概要

- 事業主体：国土交通省 北海道開発局 函館開発建設部
- 整備施設：函館港 若松地区 岸壁(水深10m)延長360m、泊地(-10m)
- 供用時期：平成30年代前半完成予定(平成28年度着手)
- 総事業費：41億円(岸壁のみ)
- 対象船舶：ダイヤモンド・プリンセス(11万トン級)

函館港のクルーズ船寄港回数の推移



函館港へのクルーズ船寄港状況



函館港における大型クルーズ船受入の現状



旧青函連絡船岸壁を活用した旅客船ふ頭整備



八幡坂からの眺望(完成後イメージ)



JR函館駅前からの眺望(完成後イメージ)

